

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501552
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム 微笑の家
所在地	新居浜市船木字上長野甲581-2 (電話)0897-41-1838
自己評価作成日	平成22年 2月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 3月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①個別にリハビリプランを立て、各種機能訓練を毎朝実行しています。またマッサージ師によるリハビリは月～金曜日に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部の研修会へ積極的に参加し内部の研修会も実施する等、職員がケアサービスの向上に向けて前向きに取り組んでいる事がうかがえる。医療との連携を密にしており、週1回の往診の実施やリハビリテーションにも積極的に取り組む等、利用者や家族の安心につながっている。今後は地域の中でのホームの役割として、介護教室の開催や介護予防相談等を計画、検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家

(ユニット名) れんげの里

記入者(管理者)

氏名 谷口 恵子

評価完了日

平成22 年2月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時より地域密着型サービスとしての理念となっており、毎朝管理者も含め職員全員で理念を唱和しています。達成しやすい具体的な目標を掲示し、サブ理念としています。</p> <p>(外部評価) 代表者の介護に対する想いを理念として掲げ、管理者を含む全職員で毎朝唱和して、理念の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会の一員として地域の奉仕作業や行事等に積極的に参加し、日頃から関係を深めております。地域の盆踊り大会や太鼓祭り等へも参加させていただき、地域の方々や子供さん達との交流も図っています。</p> <p>(外部評価) 地域の一員として、地域行事に積極的に参加している。散歩時に地域の方とあいさつを交わしたり、何気ない会話を楽しんだりしている。また、ボランティアの受け入れも行っており様々な立場の方と交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設での催し物等の時は、地域の方々へも案内や参加を呼びかけています。運営推進会議では地域に貢献できる様な活動内容を議題に取り上げ、施設を利用している地域の高齢者の健康チェックや介護教室の開催を計画しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催しており、入居者や家族代表者も参加 しての報告や話し合いは出来ております。参加者から は防災時の対応等について具体的な意見をいただいた き、スプリンクラーの設置や訓練等に活かしております。	
			(外部評価) 会議録から、様々な意見が活発に出されていることが 伺える。会議で出た要望や意見を取り入れ、サービス 向上につなげている。	会議での意見や要望の中で、すぐには解決できない件 に対しても、次の運営推進会議で経過報告し、参加者 との信頼関係の構築につなげてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の相談活動を受け入れており、2ヶ月に一回 定期的に訪問していただく等、地域包括支援センター や介護福祉課とも常に連携を取っています。	
			(外部評価) 市の担当職員には運営推進会議を通じてホームの状況 を理解してもらっており、ホームからの相談もしやす い関係が構築されている。地域包括支援センターとも 協力体制が整っており、アドバイスをもらったり意見 交換したりすることができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「どんな事があっても拘束はしない」という姿勢を持 ち、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援する為の工 夫に取り組んでいます。入り口のインターホンや足元 センサーマットの利用などで対応し、日々のケアを実 践しています。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修会に参加して学んだことや、日 常のケアの中での問題を職員会の議題として取り上 げ、全職員で話しあって身体拘束をしないケアの実践 に取り組んでいる。管理者が看護師であり、薬につい ての危険性も理解しており、薬に頼らないケアを行っ ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全体会等で定期的にテーマに上げ学ぶ機会を持ち、事業内での虐待が見過ごされることのない様に防止に努めています。禁止となる行為はしないと文章による伝達を都度しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員の研修参加により、資料等職場に持ち帰り学習会に反映させています。現在は該当者はいませんが、必要性が出れば県や市の窓口にご相談しながら支援を行います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族には詳しく説明を行っています。また、入所契約時には時間を十分とり、御本人も含め理解を深めています。料金改定時や重度化に伴う機器等の負担が発生したときにも、説明し同意を得るようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎年敬老会の後に合同家族会を開催し、家族等より意見や要望を出して頂く機会を設けています。それ以外にも面会時等に定期的に意見、要望等を伺い運営者等と検討し早めに解決ができる様取り組んでいます。 (外部評価) 誕生会や日頃家族が来所した時に家族から意見や要望を丁寧に聞き取りし、それを運営に活かしている。また、家族会も結成し、敬老会の後、会議を開いて意見や要望を聞くようにしているが、今後は家族会の回数を増やす予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 運営方針や利用者受け入れの可否については会議等で職員の意見、提案を聞く機会を設けています。</p> <p>(外部評価) 施設長が、ホームの状況を把握すると共に職員からの要望を聞く機会を設けている。トイレ内への棚の設置や夜勤体制に関する意見等、職員からの要望に対して話し合いができています。管理者に対しては人間関係の相談等もある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 運営者はホームに来た際には管理者や職員と会話し、職員の勤務状況等を把握し向上心が持てる様に心掛けています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の能力に応じて内・外部の研修に参加させています。内部研修は月一回の学習会や全体会の中で行っています。各種の資格の取得も都度勧め、スタッフのモチベーションを上げるように促しています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者は新居浜市介護支援専門員の地域密着型部会に参加、情報交換を行っている。職員も愛媛グループホーム協議会の相互研修に毎年参加できており、他事業所との交流の中で互いに良い所を取り入れ、サービスの向上に繋げています。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居までには必ず御本人と面接を行い、御本人の困っている事不安なことにしっかり耳を傾け受け止めるようにしています。聴力の弱い方には時間をかけ筆談も交えて意思の疎通を図り信頼関係を築くようにしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時より家族の話を傾聴し、フェースシートを利用し情報収集し、家族の介護負担を共感し受け止めるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めての相談や面接時にはゆっくりお話を傾聴し、相手のニーズを見極め適切なアドバイス等を行っています。入居においては待機状況もあるが、緊急性を考慮して対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) スタッフと利用者は時々親子、またお互いに助け合う仲間のような思いの中に、協力しながら信頼関係を深めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には御本人の良いところを伝えるようにし、支援の必要な部分は家族に相談し、御本人の希望を共有し合える関係作りに努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会や外出等の制限は無く、御本人の希望を聞きながら家族の協力を得てできるだけ支援しています。 (外部評価) 気軽に家族が来所しやすい雰囲気作りに努めており、毎日面会に来る家族や、毎週外出する家族もいる。誕生会には、兄弟や知人も来てもらえるように働きかけたり、面会の少ない利用者は家族に手紙で連絡を取ったりしている。また、車いす利用者は職員が家まで送迎する等の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の日常の接し方を見極め、揉め事や孤立などのないように個々の利用者の話を傾聴し、その時に対応するようにしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 老人施設への入所や他ホームへの転居時には介護サマリーで経過を伝え、必要に応じ退去後も訪問等の支援をしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者がその人らしく暮し続けることができるよう、個別に対話し個々の思いや希望、意見等を把握しています。日々の経過記録やアセスメントシート等に記入し情報を共有し家族にも返すようにしています。 (外部評価) 入浴中のリラックスしている時や利用者の居室など、周りの利用者を気にしない環境で意向を伺っている。利用者からの意向を家族にも伝え、職員と家族が情報の共有を図っている。言葉で適切に伝えられない方は日頃の関わりの中で表情や態度から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 親、兄弟、子供からそれぞれの家庭環境を伺い、プライバシーを守りながら利用者さんの生活歴を把握し、アセスメントシートを作成しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者との生活の中で1日の過ごし方を観察し、御本人のできる力やわかる力を見出し、現在の心身状態を把握するようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	<p>(自己評価) 担当職員がモニタリングを行い、全職員で話し合い家族 や関係者にも相談の上、利用者主体のケアプラン作成 に努めています。又、医療的な事に関しては看護師が 主治医等と相談し、介護計画に反映するようにしてい ます。</p> <p>(外部評価) 利用者の担当職員を決め、担当職員が利用者の情報を ケアカンファレンスで全職員に伝え、全職員で検討し てケアプランを立てている。医療的な面は協力医療機 関等とホームの看護師が相談する等、関係者や家族と も話し合い介護計画を立てている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	<p>(自己評価) 個人別ファイルに誰が見てもわかるように時系列で記 録しています。御本人の言われた事や様子はそのまま 具体的に記入する様にしており、気づきや実践を記入 し都度ケアプランに基づき評価できる様なシステムと なっています。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	<p>(自己評価) 併設のデイサービスでの行事に参加させてもらったり 、介護車両を利用して載る事により全員の外出や 個別の医療受診等の支援ができています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	<p>(自己評価) 御本人を支えている近所の方や民生委員さん等を把握 し、必要に応じ連携を取ったり各種ボランティアさん の来所や、校区の子供さん達との交流も行っていま す。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のかかりつけ医による月一回の定期健診 と、週一回の往診及び、精神科専門医による月1回の定 期往診は継続しております。入居時に確認している協 力医療機関外との連携も大切に、適切な医療が受け られる様に支援しています。 (外部評価) 協力医療機関や利用者の希望する医療機関との連携も とれており、身体状況の変化に伴い随時対応できる 等、利用者や家族にとって安心できる体制が構築でき ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤看護師が配置されており、医療の連携や健康管理 はきちんとできています。また、緊急時には隣接施設 の看護師の応援も行われております。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には看護師である管理者が同行し、早期退院が 出来る様医療関係者との情報交換したり、退院に向け ての担当者会議を依頼したりしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合やターミナルケアの希望がある場合は 御本人さんや家族の意志を尊重し、繰り返し話し合 い、方針を決めケアプランを立て対応するようにして います。 (外部評価) 今までに1例の看取りのケアをしたことがある。看取 り指針に基づき今後は家族と十分相談の上、看取りま で関わる予定である。看護職が各ユニットに配置さ れ、緊急時の連絡網やその体制ができています。	ほとんど職員に看取りの経験がないため、外部研修の 受講や、管理者を中心とした内部研修を実施する等の 研鑽に努め、職員の資質や意識の向上を図ることを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、学習会等を適宜開催するなどして、全ての職員が内容を把握しておくと共に、実践においても訓練を定期的に行うことで、緊急時も冷静でかつ的確な対応が出来る様に備えています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、毎年消防署の指導及び訓練のみならず、グループホームで独自の訓練を行っています。また、日頃から地域の人々とは運営推進会議等で交流を図っており、災害時に協力が得られるように働きかけを行っています。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て訓練を実施している。昨年は夜間を想定しての訓練も行っている。	災害時には一人でも多くの協力が必要である。運営推進会議に出席してもらっている地域の方達にも協力が得られるようさらなる働きかけを期待したい。系列のデイサービスに今年から消防OBが勤務しており、その職員を通じて専門的知識の習得や、更なる協力者の拡大を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 記録の書き方や接遇については、学習会を行うなどして利用者1人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けています。職員間の申し送り時にも、利用者の誇りやプライバシーを損なわないような配慮をする等常に確認しています。 (外部評価) 職員の利用者に対する声かけや会話から、利用者一人ひとりの人格を尊重することの大切さを十分理解していることが伺える。さらに研修会に参加して学んだことを持ち帰り、日々のケアに活かせるよう全職員で話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴後の更衣時等において、服装は着たいものを選んで頂いたり、イベントの料理の献立においては食べたいものをお聞きしたり、各自の希望が言い易いような声掛け気配りをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、起床時や食事等日課に沿っての声掛けはしますが、希望や状態等御本人のペースに合わせた生活ができるように支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類の汚染や乱れには気を使い、外出時等は本人の好みを考慮しおしゃれや着替えが出来る様に支援しております。女性には外出やイベント時に化粧を勧めたり、出張理容で好みのヘアースタイルにしてもらっています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みを把握し、偏食や嚥下障害のある方も少しでも美味しく食べて頂けるように工夫しています。調理の出来る利用者さんには職員と一緒に手伝ってもらったり、生活リハビリとして片付け等を一緒にしていただいたりしています。 (外部評価) 利用者には、無理のないよう気配りしながらできることを手伝ってもらっている。利用者の希望や体調を考慮しながら外食も企画している。食事の進まない利用者もいるが、食事を楽しむことができるように職員が声かけや会話等に工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表により各利用者の食事や水分摂取量を確認するようしており、バランスの良い食事の提供や確保に努めています。毎月の体重測定や採血等により栄養状態を把握し、食事のタイミングやその時々形態を変える等介助方法を工夫しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には声掛けをし歯磨きや入れ歯の手入れを見守りや必要に応じ介助したり日常的に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各自の排泄パターンを把握し、失敗やおむつの使用が減らせるように排泄チェック表で確認し、早めの声掛けやトイレ誘導を行っています。リハビリパンツやパット類は各自に合わせ各種使用し、自立出来る様な支援や工夫をしています。	
			(外部評価) 排泄チェックシートに記録し、職員が個別の排泄パターンを把握し、それぞれの利用者に合わせてさりげないトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便状況と便秘傾向のある利用者を把握し、水分補給や適度な運動を取り入れています。なお、便秘症のかたには、軽い下剤の処方での排便コントロールを行っています。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 隔日には、午後からゆっくり入浴できるように支援していますが、利用者の希望に応じて毎日の入浴も対応可能としています。また、入浴剤を目によって変えたりして楽しく入浴出来るように工夫しています。	
			(外部評価) 隔日に入浴できる体制になっているが、希望があれば毎日でも入浴は可能である。利用者はホームの家庭浴槽を普段は利用しているが、併設のディサービスの大きな浴室を時々温泉気分で利用し、入浴がより楽しいひと時となるような工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各自の睡眠パターンや生活リズムを把握しその時々状況に応じ居室だけでなく廊下やリビングのソファ等でも安心して休めるように支援しています。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者毎に薬をケースに分別し、更に朝・昼・夕と整理することで誤飲、飲み忘れを防止し、分別の際にはチェックシートで指示通り確実に服用できるように管理をしています。尚、状態が変化した時や処方の変更になった場合は申送りを十分に行い、ナースへの報告や医療連携により早めに対応出来る様に努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各自の出来ることや介助すれば可能なことを把握し、家事のお手伝い等もして頂いています。レクの時間には生活歴や会話から得意なことや意欲の湧く事を発見し、創作活動やゲーム等に参加して頂けるように企画、支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や気温を見て、車椅子の方も含め、ホーム周辺の散歩に出かけ、道端に咲く花を摘み室内に飾って鑑賞したり、近くの自農園で野菜の収穫をしていただく等して、自然と触合うことや外気浴を勧めています。また、御本人の意向を家族等に伝え、自宅や行きたい場所への外出支援も行う様にしています。 (外部評価) ホームは田園や山に囲まれ、空気もさわやかな中にあるため、散歩するには最適な環境であり、天候や利用者の体調を考慮しながら散歩によく出かけている。また、毎日の食材の買い出しや利用者の希望に応じてデパート等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理が出来る利用者へは、御本人及び家族に説明し御小遣いを所持して頂き職員も把握するよう努めています。御本人希望で買い物を頼まれた際には物品購入後、領収書とおつりを御本人の目の前で確認して頂き保管して頂いています。御本人希望の電話は1回10円預かるようにしております。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御本人希望の電話はいつでも使用していただける様に事前に御家族の理解を得て、リビングに設置してある電話を使用させて頂いております。葉書や手紙には絵を書き添える等工夫して受け取った方の喜びを思い浮かべて楽しみながら書けるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 台所・浴室・トイレは一般家庭と変わりなく、リビングには和室を設けてくつろげる雰囲気になっています。季節に応じて利用者の創作品（貼り絵、塗り絵、習字等）を壁に展示し、季節感を感じられるようにしています。</p> <p>(外部評価) 利用者がそれぞれの居場所を確保できる広い共用空間がある。居間の横には畳のスペースがあり、そこで寝そべったり、談話したりできる。台所は対面式になっているので、職員が調理や配膳をしながら、利用者とも対話できる。トイレは3か所あり車いすの利用者でも使用できるようになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには畳部屋を設けておりテレビの前や廊下のコーナーにはソファを置く等自由に過ごせるように工夫をしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室では収納スペースを広く取っており、利用者が自由に使用出来るようになっていきます。安全に配慮しベッドや畳のどちらでも対応出来る様にしています。</p> <p>(外部評価) フローリングか畳を利用者の希望や身体状況に合わせて選択することができ、利用者の中には居室の一部を畳にしている方もいる。利用者の使い慣れたものを置き、居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの身体機能に応じて、ベッド周辺やトイレの手摺等安全に注意して自立した生活が送れるように工夫をしています。足元センサーマットや、各自に合わせた歩行器や車椅子を利用し危険防止に努めています。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501552
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム 微笑の家
所在地	新居浜市船木字上長野甲581-2 (電話)0897-41-1838
自己評価作成日	平成22年 2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 3月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①個別にリハビリプランを立て、各種機能訓練を毎朝実行しています。またマッサージ師によるリハビリは月～金曜日に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部の研修会へ積極的に参加し内部の研修会も実施する等、職員がケアサービスの向上に向けて前向きに取り組んでいる事がうかがえる。医療との連携を密にしており、週1回の往診の実施やリハビリテーションにも積極的に取り組む等、利用者や家族の安心につながっている。今後は地域の中でのホームの役割として、介護教室の開催や介護予防相談等を計画、検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家

(ユニット名) 菜の花畑

記入者(管理者)
氏名 谷口 恵子

評価完了日 平成 22年2月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 朝の申し送り時に出勤者で理念を唱和し、その1日を理念に基づいたケアが出来るように努めています。また、毎年度の目標を掲示しておりサブ理念としています。</p> <p>(外部評価) 代表者の介護に対する想いを理念として掲げ、管理者を含む全職員で毎朝唱和して、理念の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地元の各種ボランティアの方々との連絡を取り合い、定期的に訪問していただく等外部との交流を行っています。また、理念が明記されたほほえみだよりを毎月発行し、地元自治会や公民館等の公的機関へ配布しています。</p> <p>(外部評価) 地域の一員として、地域行事に積極的に参加している。散歩時に地域の方とあいさつを交わしたり、何気ない会話を楽しんだりしている。また、ボランティアの受け入れも行っており様々な立場の方と交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 夏祭り等地域の方との交流時に理解や支援を向けています。また、運営推進会議でも地域貢献を議題として取り上げ、施設を利用しての健康チェックや介護教室等の開催を計画しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議の実施にて報告や意見の交換は出来ており、参加者から毎回貴重な意見をいただきサービスの向上に努めています。	
			(外部評価) 会議録から、様々な意見が活発に出されていることが伺える。会議で出た要望や意見を取り入れ、サービス向上につなげている。	会議での意見や要望の中で、すぐには解決できない件に対しても、次の運営推進会議で経過報告し、参加者との信頼関係の構築につなげてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には毎回、市役所介護福祉課の職員が来所されています。介護相談員の相談活動を受け入れており、2月に一回定期的に訪問していただく等、地域包括支援センターとも連携を取っています。	
			(外部評価) 市の担当職員には運営推進会議を通じてホームの状況を理解してもらっており、ホームからの相談もしやすい関係が構築されている。地域包括支援センターとも協力体制が整っており、アドバイスをもらったり意見交換したりすることができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内での身体拘束は絶対しないことをよく理解し、職員一人ひとりが安全を確保する為の工夫に取り組み、介助にあたっています。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修会に参加して学んだことや、日常のケアの中での問題を職員会の議題として取り上げ、全職員で話しあって身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。管理者が看護師であり、薬についての危険性も理解しており、薬に頼らないケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全てが虐待について十分に認識及び理解しており、行為の無いケアに取り組んでいます。禁止の対象となる行為はしないと文章による伝達や学習会を設けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員の研修参加により、資料等職場に持ち帰り学習会に反映させています。現在は該当者はいませんが、必要性が出れば県や市の窓口にご相談しながら支援を行います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族には詳しく説明を行っています。また、入所契約時には時間を十分とり、御本人も含め理解を深めています。料金改定時や重度化に伴う機器等の負担が発生したときにも、説明し同意を得るようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱等を設置しており、家族の声を受け入れ易くしています。その御意見等を職員全員で対応・共有するように努めています。 (外部評価) 誕生会や日頃家族が来所した時に家族から意見や要望を丁寧に聞き取りし、それを運営に活かしている。また、家族会も結成し、敬老会の後、会議を開いて意見や要望を聞くようにしているが、今後は家族会の回数を増やす予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎朝の合同朝会で施設長は意見や提案を聞き、何かあればその都度話し合う機会を設け反映されている。 (外部評価) 施設長が、ホームの状況を把握すると共に職員からの要望を聞く機会を設けている。トイレ内への棚の設置や夜勤体制に関する意見等、職員からの要望に対して話し合いができています。管理者に対しては人間関係の相談等もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者はホームに来た際には管理者や職員と会話し、職員の勤務状況等を把握し向上心が持てる様に心掛けています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の能力に応じて内・外部の研修に参加させています。内部研修は月一回の学習会や全体会の中で行っています。スタッフ同士の良い行動や仕事内容についても日々の態度から学びとり自己啓発を促しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は新居浜市介護支援専門員の地域密着型部会に参加、情報交換を行っている。職員も愛媛グループホーム協議会の相互研修に毎年参加できており、他事業所との交流の中で互いに良い所を取り入れ、サービスの向上に繋げています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までには必ず御本人と面接を行い、御本人の困っている事不安なことにしっかり耳を傾け受け止めるようにしています。聴力の弱い方には時間をかけ筆談も交えて意思の疎通を図り信頼関係を築くようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時より家族の話を傾聴し、フェースシートを利用し情報収集し、家族の介護負担を共感し受け止めるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めての相談や面接時にはゆっくりお話を傾聴し、相手のニーズを見極め適切なアドバイス等を行っています。入居においては待機状況もあるが、緊急性を考慮して対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活リハビリの一環として、できる方には一緒に掃除や台所仕事を手伝っていただいたり、利用者の苦労話等を傾聴し共に支え合う関係作りを築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) なかなか面会に来られない家族には適宜連絡を取り、御本人の希望を共有し合える関係作りを努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会や外出等の制限は無く、御本人の希望を聞きながら家族の協力を得てできるだけ支援しています。 (外部評価) 気軽に家族が来所しやすい雰囲気作りに努めており、毎日面会に来る家族や、毎週外出する家族もいる。誕生会には、兄弟や知人も来てもらえるように働きかけたり、面会の少ない利用者は家族に手紙で連絡を取ったりしている。また、車いす利用者は職員が家まで送迎する等の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間でのトラブルにはそれとなく職員が対応し、できるだけ利用者同士が仲良くできるよう茶話会等を行い、良い関係が保たれるよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 老人施設への入所や他ホームへの転居時には介護サマリーで経過を伝え、必要に応じ退去後も訪問等の支援をしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者がその人らしく暮し続けることができるよう、個別に対話し個々の思いや希望、意見等を把握しています。日々の経過記録やアセスメントシート等に記入し情報を共有し家族にも返すようにしています。 (外部評価) 入浴中のリラックスしている時や利用者の居室など、周りの利用者を気にしない環境で意向を伺っている。利用者からの意向を家族にも伝え、職員と家族が情報の共有を図っている。言葉で適切に伝えられない方は日頃の関わりの中で表情や態度から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーを考慮しながら、御本人や家族等と馴染みの関係を築き、日々の生活の中でこれまでの暮らしを捉えていけるようにしています。フェースシート等も参考に各自のアセスメントシートを作成しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者を総合的に見つめる目を養いながら、御本人の出来る力、わかる力を暮らしの中で発見し、チームとして把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 受け持ち担当者が情報を収集しモニタリングを行い、アセスメントに基づいてチームでサービス担当者会議を開催し、利用者主体の目標を立て個別性のあるケアプランの作成に努めます。</p> <p>(外部評価) 利用者の担当職員を決め、担当職員が利用者の情報をケアカンファレンスで全職員に伝え、全職員で検討してケアプランを立てている。医療的な面は協力医療機関等とホームの看護師が相談する等、関係者や家族とも話し合い介護計画を立てている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別のファイルに時系列で丁寧に記載しており、ケアプランが反映出来る様、実践や気づきが記入されており、都度評価できる様な書式となっており、それを基にモニタリングに活かせる様にしています。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 併設のデイサービスでの行事に参加させてもらったり、介護車両を利用して載る事により全員の外出や個別の医療受診等の支援ができています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 御本人を支えている近所の方や民生委員さん等を把握し、必要に応じ連携を取ったり各種ボランティアさんの来所や、校区の子供さん達との交流も行っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のかかりつけ医による月一回の定期健診 と、週一回の往診及び、精神科専門医による月1回の定 期往診は継続しております。入居時に確認している協 力医療機関外との連携も大切にし、適切な医療が受け られる様に支援しています。 (外部評価) 協力医療機関や利用者の希望する医療機関との連携も とれており、身体状況の変化に伴い随時対応できる 等、利用者や家族にとって安心できる体制が構築でき ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤看護師が配置されており、医療の連携や健康管理 はきちんとできています。また、緊急時には隣接施設 の看護師の応援も行われております。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には看護師である管理者が同行し、早期退院が 出来る様医療関係者との情報交換したり、退院に向け ての担当者会議を依頼したりしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合やターミナルケアの希望がある場合は 御本人さんや家族の意志を尊重し、繰り返し話し合 い、方針を決めケアプランを立て対応するようにして います。 (外部評価) 今までに1例の看取りのケアをしたことがある。看取 り指針に基づき今後は家族と十分相談の上、看取りま で関わる予定である。看護職が各ユニットに配置さ れ、緊急時の連絡網やその体制ができています。	ほとんど職員に看取りの経験がないため、外部研修の 受講や、管理者を中心とした内部研修を実施する等の 研鑽に努め、職員の資質や意識の向上を図ることを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の日常の様子及び行動を把握し、利用者の急変や事故発生時に備えて全ての職員が対応できるように、リビングの電話機のそばにマニュアルや手順表を掲示し日頃から行動できるようにしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、毎年消防署の指導及び訓練のみならず、グループホームで独自の訓練を行っています。また、日頃から地域の人々とは運営推進会議等で交流を図っており、災害時に協力が得られるように働きかけを行っています。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て訓練を実施している。昨年は夜間を想定しての訓練も行っている。	災害時には一人でも多くの協力が必要である。運営推進会議に出席してもらっている地域の方達にも協力が得られるようさらなる働きかけを期待したい。系列のデイサービスに今年から消防OBが勤務しており、その職員を通じて専門的知識の習得や、更なる協力者の拡大を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけには細心の注意を払っております。利用者の個人情報外部に漏らさないように、また記録や書類は持ち出さないように守秘義務を徹底しています。 (外部評価) 職員の利用者に対する声かけや会話から、利用者一人ひとりの人格を尊重することの大切さを十分理解していることが伺える。さらに研修会に参加して学んだことを持ち帰り、日々のケアに活かせるよう全職員で話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の様子を観察しながら、スキンシップや声かけ及び納得のいく説明等を行っています。利用者の意思表示をしっかりと受け止め、希望に沿った決定が出来る様に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の日課はありますが、スキンシップや声かけにより御本人の希望や状態を把握し、個別の希望に沿うように心掛けています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみやおしゃれの支援は個々の意思及び意見を尊重し、それに基づいた支援を行っています。理容・美容に関しては、御本人や家族の意思にお任せしているが、定期的な出張理容も依頼しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 固定メニューは定めておらず、毎日買い物へ行き新鮮な食材、旬の食材など購入し入居者の体調や気分に応じてその日のメニューを考え調理を行います。また、食器やお箸など御本人の馴染みの物を使用しています。 (外部評価) 利用者には、無理のないよう気配りしながらできることを手伝ってもらっている。利用者の希望や体調を考慮しながら外食も企画している。食事の進まない利用者もいるが、食事を楽しむことができるように職員が声かけや会話等に工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量や水分摂取量をチェック表に記入し、誰が見てもその日1日の摂取量が確認できるようにしています。食事に関しては調理検食記録に献立、食材を記入しバランスの良い食生活が出来る様に心掛けています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い出来ているかチェックし、確認表に記録しています。また、口腔内に異常が生じた場合直ちに家族へ連絡を行い、歯科受診を促しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄のリズムを把握するため排泄チェック表に記入しています。また、支援する方法も一定化するのではなく、カンファレンス等で話し合いその人にあった最善の方法を導き出すようにしています。	
			(外部評価) 排泄チェックシートに記録し、職員が個別の排泄パターンを把握し、それぞれの利用者に合わせてさりげないトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて排便が見られない場合、食物繊維や水分量を増やす様勧めたり、適宜の運動や腹部マッサージを行い自然排便を促しています。状況によっては緩下剤等の量を調整するようにしています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表に記入し入浴を行った日を確認、隔日には入浴が出来るように支援しています。また、ケアチェック表や御本人の希望に基づき、その日の体調に応じた時間帯や入浴方法で対応するようにしています。	
			(外部評価) 隔日に入浴できる体制になっているが、希望があれば毎日でも入浴は可能である。利用者はホームの家庭浴槽を普段は利用しているが、併設のディサービスの大きな浴室を時々温泉気分で利用し、入浴がより楽しいひと時となるような工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は活動的に生活できるように心掛けておりますが、様子を見ながら個々に声掛けを行い、疲れているようであれば適時ソファや居室等で休んで頂くようにしています。夜間は安心して気持ちよく眠れるよう、居室内の環境整備を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬の用途等を記入しています。毎服薬確認を行う様職員同士の声かけや、薬の一覧表の確認を行っています。必ず御本人の前で薬ケースから手渡し確認し、誤薬や飲み忘れ防止に努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合ったレクリエーションを計画し午前中に行うようにしています。毎月数回はおやつ作りや皆が関われる食事作りのお手伝いなどにも参加していただき、役割が持てるように支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には外気浴に行ったり、御本人の散歩希望にも応じております。季節にも関係しますが月に1~2回行事としての外出時には、車椅子全介助の利用者もリフト車等を利用して、全員参加出来る様に支援しています。 (外部評価) ホームは田園や山に囲まれ、空気もさわやかな中にあるため、散歩するには最適な環境であり、天候や利用者の体調を考慮しながら散歩によく出かけている。また、毎日の食材の買い出しや利用者の希望に応じてデザート等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は自分でされており、出来ない方は事業所で預かっていますが、お買い物に行った時や御本人希望で購入する場合は、職員が付き添い自分で支払いが出来るように支援しています。お小使い帳の記入と適宜家族へ報告や提示をするようにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御本人が家族に電話を希望される場合は、その支援を行います。手紙は記入困難な利用者でも、年に一度の年賀状は家族宛に送れるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共同生活空間は居心地よく過ごされるように考え、生花など季節感を採り入れる努力をしています。一人ひとりがその人らしく過ごせる場となる様に、価値観を大切にしながら工夫と配慮をしています。	
			(外部評価) 利用者がそれぞれの居場所を確保できる広い共用空間がある。居間の横には畳のスペースがあり、そこで寝そべったり、談話したりできる。台所は対面式になっているので、職員が調理や配膳をしながら、利用者とも対話できる。トイレは3か所あり車いすの利用者でも使用できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間のリビングでは一人ひとりの決まった席があり、その空間では居場所が確保されています。また、フローアーにはソファ等が置かれていて各自が落ち着く場所が工夫されています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) プライバシーを大切に居心地よく、安心して過ごせるように考えています。馴染みの物を活かしたりスペースも充分考え、安全にどんな時にも対応出来る様に一人ひとりに合った個室を工夫しています。	
			(外部評価) フローリングか畳を利用者の希望や身体状況に合わせて選択することができ、利用者の中には居室の一部を畳にしている方もいる。利用者の使い慣れたものを置き、居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各利用者が自立した生活が送れるように、身体の状態に合わせた危険防止や自分の力を活かして動ける個別の道具を工夫しています。足元センサーマットや御本人に合った歩行器や車椅子の調整、及び視力障害者への配慮等、常に職員間で検討しています。	